

日本労働年鑑 第59集 1989年版
The Labour Year Book of Japan 1989

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

4 公明党

3 大会・中央委員会

(1) 中央委員会

第五九回中央委員会

八八年三月九日、公明会館で開催された第五九回中央委員会であいさつした矢野委員長は、現職参院議員が逮捕された「田代問題」について、「公明党議員に対する警鐘であったと痛感する」とのべるとともに、庶民の声を代弁する戦いを再スタートしようと訴えた。また、衆参ダブル選挙には断固反対の姿勢を表明するとともに、重ねて野党四党の参院選比例区名簿一本化の重要性を訴えた。さらに、減税の実施について「これは野党の結束の勝利」であるとしながら、恒久財源については「キャピタルゲイン課税に加えて、法人の含み資産を再評価し、その適正な課税によって十二分にまかなえる」とのべ、「今後も引き続き大型間接税導入阻止のため厳しい覚悟で臨んでまいる所存」との決意を表明した(全文は『公明新聞』八八年三月一〇日付)。

第六〇回中央委員会

八八年六月一四日、公明会館で開催された第六〇回中央委員会であいさつした矢野委員長は、まず「大橋問題」についての掘り下げた討議を要請し、ついで参院選・都議選への対応について、統一名簿実現への努力とあらゆる状況に対応できる選挙態勢を整える必要性を強調した。また、大型間接税導入のための臨時国会召集には反対であるとの考えを示すとともに、「厳しい覚悟」を改めて明らかにした(全文は『公明新聞』八八年六月一五日付)。

質疑応答のなかでは、大久保書記長が、大橋衆院議員を支援する藤原都議について、都議会公明党の議員総会の結果などを見守っていきたいとのべ、「政教分離」の路線をさらにすすめていく決意を表明した。また、矢野委員長も創価学会との連絡協議会設置の意向を表明した(質疑の要旨は『公明新聞』八八年六月一六日付参照)。

第六一回中央委員会

八八年九月二〇日、公明会館で開催された第六一回中央委員会であいさつした矢野委員長は、最初に「心から天皇陛下のご病気のご回復を願い、一日も早くお元気になられますことをお祈り申し上げる」とのべたのち、「田代事件」「大橋・藤原問題」などに言及し、改めて遺憾の意を表明するとともに、「公明党は生まれ変わり、一から出直す意味で」、「再出発の日にいたさねばならない」との決意を表明した。そして、その再出発にあたり、(1)庶民の側に立った政治の実現、(2)福祉社会の実現、(3)核兵器廃絶と世界平和の推進の三点を基本方針とすることを確認した。また、臨時国会への

対応については、消費税導入のための会期延長反対を改めて表明した(全文は『公明新聞』八八年九月二二日付)。

日本労働年鑑 第59集

発行 1989年6月26日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑第59集【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
